

# 希望

チューリッヒ日本人学校便り

平成 29 年 11 月 27 日発行

第 27 号

編集発行 鈴木史良

## 自分の将来について考える

—— 中学部がチューリッヒのベルフス・メッセを見学 ——

11月22日(水)、この日に中学部の生徒はオエリコンにあるメッセ・チューリッヒで開催されたベルフスメッセを見学し、さまざまな職業について理解を深めました。翌日の23日は、「勤労感謝の日」でした。この日は“勤労をたつとび、生産を祝い、国民たがいに感謝しあう”ことを趣旨として昭和23年に公布・施行された日本国民の祝日です。本校の場合は休校にはなりません。中学部の生徒たちにとっては勤労感謝の日の意義も含め、キャリア教育として将来の職業について考える機会になりました。

生徒たちは、2校時終了後、引率教師らとともに会場に向かいました。目的は、“他国における職業教育(進路・キャリア教育)を見学・体験することにより、自分自身の将来の職業決定を含めた進路や中学校卒業後の進路に対する意識を高める”こと。日本の中学校でも事業所や工場、商店等に受け入れを依頼し、そこで実際に働く職場体験を実施していますが、ベルフスメッセのようにさまざまな職業が一堂に会したところで見学・体験する機会はめったにありません。本校の生徒たちは、木材加工、金属加工、ロボット、スーパーマーケットなど、多種多様なブースで、積極的な体験活動をおこないました。

### <体験した中学生の感想>

● 日本とスイスの職業選択の違いについてどのように思いましたか。

☆ 日本では、あまり多くの種類にはふれないけれども、スイスではすごく多くの職業、ものづくりを見ることができた。

☆ 日本は、ある意味、過保護だけれど、スイスは自由にできる国だなと思った。

● ベルフスメッセを通して気づいたこと、認識が変わったことはどんなことですか。

☆ 自分の将来について、特に何も決まっていなかったけれど、今日選んだ体験を振り返ると、何となく方向が決まってきたと思った。

☆ 意外に、本格的な内容だなと思った。

● ベルフスメッセを通して、感じたこと、考えたことを通しての感想は何ですか。

☆ 普段できないことを見たり、実際に体験できたりして、とてもよかった。また、外国人とのコミュニケーションをとるよい体験になった。「VRC (Virtual Robot Controller)」



多くの体験ブースが広い会場に



パスタ作り体験する本校生徒

や「3Dプリンター」など、最先端の技術を見ることができておもしろかった。  
☆ いろいろなものが作れて楽しかった。普段できないことを体験するには、よい機会だと思った。実際にそこで働いている人と話せてよかったと思った。

## ウスターマルクトによる特別日課

11月30日(木)、12月1日(金)に恒例のウスター・マルクトが開催されます。現地校は2日間休みになりますが、本校は、30日(木)は平常授業をおこないます。1日(金)は3時間のみの授業とさせていただきます、授業終了後、午前11時10分に下校となります。ウスター・マルクトの発祥は古く、今から900年以上も昔の1099年に遡ることができます。この地に初めて教会ができ、教会の誕生を祝う行事のため多くの人々が集まりました。教会の周りに物々交換のための市ができたのが、その始まりとされています。スイスの歴史的、伝統行事ですね。



マルクト・フォト俳句  
(昨年度中3生徒作)

## 12月の主要予定

ホームページでの公開はしていません。  
ご了承ください。